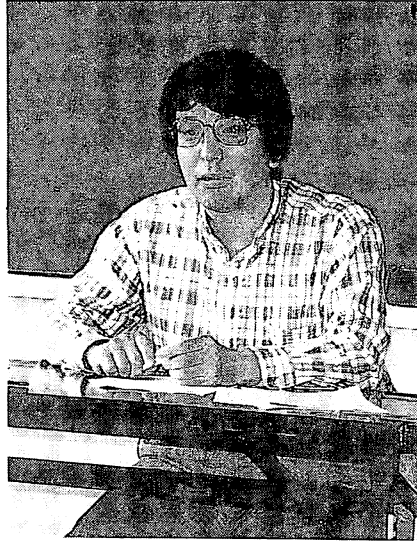


KSKP サロン・あべの No.60

障害者の教育と自立



新緑に紅いバラが鮮明に映える平成三年五月十八日(土)午後一時〜四時、育徳コミュニティーセンター研修室に於て「障害者の教育と自立」について、嘉戸敏之氏に話を伺った。

嘉戸氏は、二十余年堺養護学

校で障害児の教育に携わって来られた。その経験を通して養護学校の移り変りと生徒の教育について話された。

堺養護学校は、大阪府下で初めての肢体障害児の為の養護学校として一九五六年四月に開校

された。当初より十年間ぐらいはポリオの生徒が多く、中学・高等部へ進学する時にも、選抜試験等があった。

又、大学に進学する人や就職する人達も多かったが、六五年以降より脳性マヒの生徒の在籍率が八十%以上と高くなって、障害も多様化してきたので、教育内容もきめ細かい配慮が必要となり普通科のコースが細分化されていった。

六一年に高等部が設置された時は、普通課程(Bコース大学進学部)と商業課程(Cコース)だけであったのが、六三年に普通課程Aコースが設けられ、その後八九年までに普通課程D・Eコース(最重度障害児)が出来、七二年には希望者の全員入学と進学が実現して、知恵遅れを伴った重複障害児の生活課程Fコースが設置された。そして、九一年には、今までの普通課程

AコースをA・A²のコースに再編成をして生徒の重度化に対応されているという。

各学部は、六〜七クラスで八、九人の生徒。一クラスに二、三人の担任がいる。教育の目標としては、「明るく・正しく・たくましく」を校訓にしている。高等部では、「自主・自立・互助」を目標にして学習しているが、障害の重複重度化で年々自主・自立が難しくなってきた。

重度障害児は、親はなれが充分に出来ていないし、何かあれば助けてもらえろという考えがある。こちらとしては、コミュニケーションを深めて要求が出てから対応していきたいと考えているので、待つ姿勢を大切にしているが、学校と家庭(親達)では対応が違ったりして、なかなか軌道には乗せられない。言葉や行動などで、はっきりと意

志表現が出来ない重度の障害児にも自分の想いを表現するシグナルは出せるものだから、それを取り落さないようにしなければならぬ。その生徒に何が必要であるか、こちらが判断をして段取りをしていかなければならない。

教育としての教科学習は必要であるが、それよりも自分の障害のこと、社会のことがどれだけ分かっていくかが大切である。夢は大きく持たせてやりたいが、現実には即した可能性のある夢を見られる様に指導していきたくて考えている。親の立場から子供に期待する気持ちも解らないわけでもないが、教科第一の学力だけで良いのかと卒業前になると考える。計算が出来ても社会の中で使える応用力が必要であり、人との横の係が出来るなければ卒業しても自立はしにくい。甘い親は子供の将来の生活を考えないで、ミエに走り

やすく「進学」を望むことが多く、が、障害児の場合は、親と子供が共に将来の自立生活を考えて、現実を見つめ現状を変えていく姿勢がなければならぬ。その努力を教えることが大切であり、自分の要求を出せる人間になって欲しいと希っている。

しかし、自立生活が出来ない人が取り残される社会であってはいけないので、卒業後の進路（作業所や施設等）指導の援助活動や、情報提供等にはあたっている。

これからの親達には辛口の親としてのガンバリが期待されるが、障害児の自立は幼児の時から将来の生活を考えた学習が必要である。と話終えられた。

参加者の中には、養護学校の卒業生もあり、在籍当時の機能訓練や言語訓練の学習に疑問を持った声が出たり、卒業生の社

会性のない生活態度を指摘する声もあった。又、現在の養護学校の存在を考える質問も出たが、今は地域の学校の養護学級等、選べる時代になっているという。養護学校を卒業後、卒業生の青年学級等の世話をしている人から「重度の障害を持つ人は、社会や親から期待されずに生活をしていることが多いが、人として生きていくことにプライドを持って欲しい」という。

養護学校を知らず地域の学校を出た人からは「地域の学校に設備が無いから養護学校へ行きなさい。ではなく、自分で選べる学校であって欲しい。又、障害者が生きていく価値を教えて欲しい」と発言。

健常者からは、生徒の状況変化に伴う教師や学校の対応が聞かれた。

教師としての実質的な理念の変化はないが、重度障害者が増えた分、目が離せなくなった事

と、短時間での教育でなく二年と学習していく中から、お互いの信用が生れ心が通じ合うので、気長く現実を見て欲しい。等々率直な話が交わされた。参加十八名。司会は中西利香さん。

リサイクル情報

昨年29万円で購入した「電動三輪車椅子」を15万円で譲りたい。

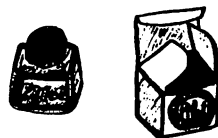
メタルブルーのデラックス仕様。

2段変速（2KM. 5KM/H）

前後にバケット、杖置き付き

問合せ

TEL 06-691-1028 富田



学校時代の思い出

中西 利香

私は、とてもお転婆だったから、養護学校時代にはよく失敗をして、先生に迷惑をかけたと思います。

小学部の三、四年の遠足で、万博公園に行った時のことでした。噴水の水溜りに細い板が向こう側まで敷いてありました。そこを友達と渡って行こうとして、私は途中でバランスをくずして水の中に落ちて、おまけに尻餅をついてしまいました。上から下までびしょびしょになってしまい、先生



の服を借りて自分の服を乾かしてもらった思い出があります。

私達の学年で、足の機能訓練で歩ける人は、冬になると男女一緒にグラウンドでラグビーをしました。雪の積ったグラウンドでの出来事です。ボールを蹴ろうと思って足に力が入りすぎて、頭から突っ込んでしまったこと、タックルをして男の友達のトレー

ナーのポケットをビリッビリッと破ってしまったこと、その友達に「弁償して」と言われて、未だにそのまま。その時ことを思い出すと自然と笑ってきます。

今思うとその十二年間は、楽しいこと、悲しいこと、辛いことなど色々あったけれど、先生と友達に恵まれて幸せだったと思います。

只今、勉強中

齊藤 孝文

先日は「サロン・あべの」の集いに久方振りに出席し、懐かしい皆々様と会うことが出来て嬉しいでした。ただ時間が短くて充分にお話も出来ず残念に思いました。

原稿をとのお手紙をいただきましたので、今勉強中のことを少し書いてみます。

何よりも僕にとっても親にしても助かっていることは、各学校の先生方に働きかけて、僕ともう一人榎原市在住の障害者の為の通学の足になっていただける様をお願い

したところ、現在三十人の先生方が登録して下さり、随時お電話で先生のご都合をお聞きして登、下校の送り迎えと学校での学習のお手伝いをして下さいます。

その為、毎日先生が入れかわり立ちかわり変わるの、嬉しい反面教え方もまちまちになり、ちよつと戸惑いがちになります。

但し、自家用でそれも色々の車種の車で登、下校出来るとは夢のようです。

その昔、母に背負われて、駆込歩き、電車、学校の送迎バスと乗り継いで、堺迄通学した頃の苦勞が思い出され感無量の思い出です。

次に学習のことですが、僕たち障害者三人は「マンツーマン方式」で特に担任の先

生は解るまで、手取り足取り親切に教えて下さいます。養護学校を出てから二十有余年、特に数学は普段余りに必要ないものですから、初心に帰ったつもりで勉強しています。文章表現は、巧みと先生にほめてもらって喜んでいますが、国語も応用問題となると頭痛の種です。国語と数学が一段落すれば、英語と奈良の歴史を学びたいと思っています。

生徒会もちゃんと出来、変わったニュースがあれば、新聞も発行します。午後七時には、夜の給食が出ます。春と秋には、遠足もあり、生徒の年齢層が厚いので、いろいろバラエティに富み、社会勉強も出来て楽しい一日になりそうです。

夜間中学以外にも、先生がいろいろな会合や催し物に連れ出して下さいますので大変勉強になり、忙しいながらも充実した毎日を通していきます。

では今日はこの辺で失礼いたします。「サロン・あべの」の益々のご発展と皆様のご健勝を心からお祈り致します。



《新》なんとかしてエくな

まだまだ「なんとかしてほしい」ことがいっぱいあります。の、声にこたえて《新》なんとかしてエくなを連載します。

駐車認可のステッカーを

東谷 和代

地下鉄御堂筋線の昭和町駅周辺の自転車駐車場は、平成三年六月一日から有料になりました。

自転車も車椅子も一回駐車すると一五〇円、回数券十一回分で一、五〇〇円、障害者手帳をもっている人は、回数券だけ半額になるようですが、それも駅の入口から遠いボックスまで行って、お金や回数券を払わなくてはなりません。

車だったら何処に止めても良い証明があるのに、自転車や車椅子も共に私達の必要ななんですから、何処にでも止められるステッカーを張るとかなんとか、考えて欲しいと思います。

利 用 料

一回券	回数券 十一回分	期 定		自 転 車
		三ヶ月	一ヶ月	
一五〇円	一五〇〇円	五七〇〇円	二〇〇〇円	ミニバイク
二〇〇円	二〇〇〇円	八五〇〇円	三〇〇〇円	



Volunteer Center

2

一 ボランティア活動の歴史

わが国でのボランティア活動は、戦前はセツルメント、YMCA、YWCA、ボーイスカウト、ガールスカウト、赤十字奉仕団などの活動や、行政の委嘱するボランティアといえる民生委員など、非常に限られたものであった。

戦後になってからは、戦後の荒廃の中で青少年の保護育成をめざして学生を中心に始められたBBS運動やセツルメント運動

が全国的な組織に発展するとともに、全社協によるボランティアへの取り組みも始められ、活動が拡大してきた。このころのボランティア活動は専門家の協力機関という意味づけが強かったようである。

六〇年代の高度経済成長期になると、福祉問題の増大からボランティア活動も拡大し、社協の善意銀行が全国に広がるとともに、ボランティア協会大阪ビューローなどの民間ボランティア推進団体によるボランティアセンターも生まれた。このころは、ボランティア活動は単なるサービスではなく、活動を通じて社会福祉の問題を知り、問題を解決する方向へ導くものと定義されるようになったが、一方では都市化につれて「ふれあい」を求めるボランティア活動も増加してきた時期でもあった。

そして七〇年代になると、福祉見直し論や地域福祉の重視などからボランティアへの期待が非常に大きくなり、厚生省による社協善意銀行への補助、さらに「福祉ボランティアの町づくり計画（ボランティア計画）」などが始まって行政によるボランティア活動の推進がすすめられ、活動に参加する人は著しく増加した。ボランティア活

動に対する考え方も、福祉社会をつくる担い手として公私協働や相互扶助としての役割が強調されるようになった。

こうした行政によるボランティアの推進は従来からボランティア活動をすすめてきた民間推進団体への支援ではなく、社協を拠点としたボランティア活動の組織化に力が入れられており、在宅での「サービスの供給」を中心としたボランティア活動の推進ということが特徴であった。

このような動きは現在も引き継がれていると考えられるが、高齢化の進展にともなう在宅サービスの充実がより一層重要となってきたことから、福祉公社や福祉生協など、有償の市民参加型のサービス供給組織が非常に増加してきている。これらはボランティア活動とは異なるものの、一種の「有償ボランティア」ととらえられている面もあり、ボランティア活動のあり方が再び問われている時であるといえよう。

原田 仁

ナンパイの

ひとこと&ふたこと。

「特急」にしますか? 「急行」にしますか?

連休明けに四日市の友人の処へいった。

ここ数年、もう年中行事のようにしてこの時期に訪れている。結果的には遊びに行っているようなものだが、本当の目的は友人の母上の法事。今年でもう三回忌になる。

ところで、四日市へは近鉄の難波からだ
と直通の特急で乗り替えなしで二時間余りでいける。ただ友人宅の最寄りの駅へ行くには、どうしても一度は乗り替えをしなければ駄目なのだ。

時間はたっぷりあるが、ふところ具合はなかなか「たっぷり」とはいかない我ら夫

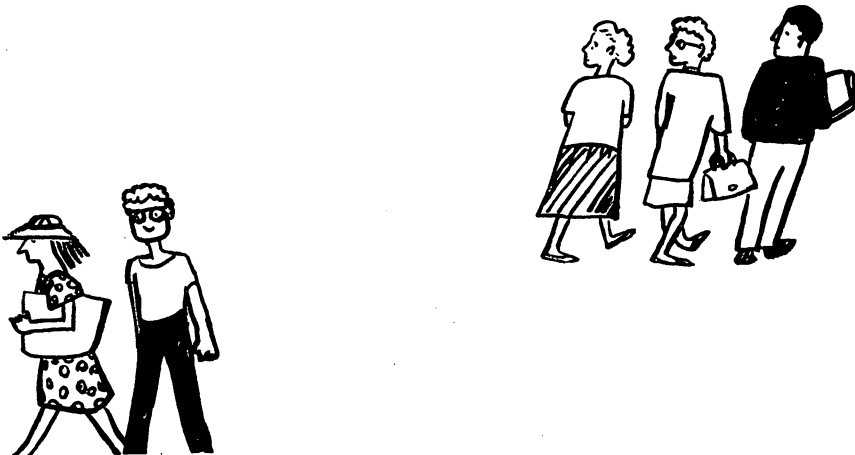
婦ふたり、今回は障害者割引の利く乗車券だけで乗れる急行で出掛けることにした。

難波まではヘルパーさんも付き添って来てくれたし、もう何度も行き慣れた道中である。エレベーター、エスカレーターを使って何の問題もなく難波駅の改札口まではやってきた。「問題」はそれから先。(ただこう書いている私でさえ、本当は「問題」と言うことにはいささか大げさかなと思える程度のちょっとした出来事だが)

改札口で駅員に、行き先と急行で行く旨を告げ切符を買おうとすると、「一時間半待てば特急で乗り替えなしでいける。それまで待ってもらおうか」

命令口調でないにしろ、何人か集ってき
ていた駅員どうして話しあってからその後で、

「乗り替えもないし、特急にするやろ」と



いう具合に私たちに言うのである。

勿論、今更言われなくても特急なら一本でいけることや、料金も高くなるということも払えない程の金額ではないことも知っていたので、特急でもかまわないとも思っていたが、そのどちらを選ぶかは本来、客である私たちが決めるもの。当然の事として持っているべき「選択の自由」というものだと思っていた。けして「わがまま」と言うものでもない。ところがその時の状況は私たちの希望よりも、言い過ぎかも知れないが少しでも乗り替えの際の駅員の手間を省こうという考えが支配的。

勿論、駅員全員がそんな考えではなかっただろうが、いかにもやっかい者と言いたげな一人の駅員の態度に「ムカツ」と来た私は、口をとんがらせながら最後まで「急行でいくんや」という主張を曲げなかった。そんな私を見ながら妻は、半ば困ったような表情をしながらそれでも特急の乗降口が狭くて電動車椅子では途中の駅でドアが開くたびに降りする人に気を使わなければいけないことを知っていることもあり、私程ではないが「急行で行く」という自分の主張を変えなかった。

結果は、私たちの希望通り四時間近い電車の旅を楽しんで、四日市に着く事が出来た。問題の乗り変えも驚くほどスムーズに行き、急行で行くという「選択の自由」を主張することの正しさの実証が出来たようだった。ただし、帰りも「自由」の楽しさを選んだために「行きはよいよい帰りはこわい」の歌のとおり結果になってしまった。

というのは、同じように急行に乗ったまではよかったものの、行きの電車は乗り変える駅ではうまく階段を昇らないですむホームに入った為スムーズだったのが、帰りの電車はそうはうまくいかず階段を昇ったり降りたり、電動車椅子に乗っていた妻は100キロを越える重いものを駅員に抱かえて貰ったことに、必要以上と思えるほど恐縮し「すみません、すみません」を連発する有様。せっかく「選択の自由」を手にする事の正しさと楽しさを体験できたと思っただのも一瞬で、やはり「いつでも、どこでも、だれでも」が本物の「選択の自由」を手にするまでにはまだまだ時間がかかるのだ、と思い直していた。

南光龍平

〇〇 サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました 〇〇

「阿倍野区ボランティア連絡協議会」の朗読グループのご協力により、サロン・あべの紙の録音テープを作っていただいています。バックナンバーは三九号から、五九号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。サロン紙朗読テープご希望の方は、富田までお申し出下さい。(TEL 06-691-1028)

＃ 感謝 します ます 井

カンパ・冊子・切手・はがき・カセットテープ等ご協力ありがとうございます。お礼を申し上げます。

五月のカンパ 金二一、〇〇〇円

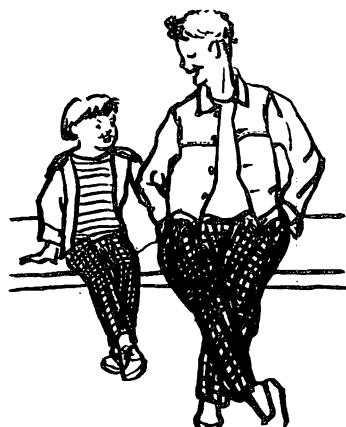
秋野富美子、嘉戸敏之、小西千代子、田中美智子、松田峰子、水野富美子、

匿名二名様(敬称略)

人間の深さ

ぼくが勤めている社会福祉学科では四年生になると実習がある。学生たちは八五日間という間、福祉施設で実習生として活動する。

ぼくには直接に指導しなければならぬ十三人の学生たちがいるのだが、彼らには「(老人ホームで)オシメをうまく付けられなくても、複雑な福祉制度を暗記できなくても悩む必要はない。だいじなことは、そんなことではない。実習を通して自分の人生観、人間観、死生観を深めてほしい。それだけでいいのだ」と繰り返かえし言っている。



講義をしたり返ってきた答案を読んだりしているときにはわからないが、ひとりひとりの学生たちの「人間の深さ」にはかなり差があるのだということが、彼らの実習を見ていると、わかってくるような気がする。

ある学生にそんな話をしたら「何を基準に深い、浅いと言っているのか」と問いただされた。どう答えてよいかわからず、ぼくは、こういう話をした。

以前、ぼくの担当の一人の女子学生が養護施設に実習に行った。彼女は、施設でなにを学びたいのかと聞かれて「両親のいない子ども心がどんなふうにゆがんでいるのか見たい」と言っ

た。

その言葉に、保母さんは心を傷つけられた思いがしたそうだが、彼女はそれに気がつかなかった。そのときの周囲の沈黙に、「心理学の知識がない人にこんなことを話したのは間違いだった」と彼女は思ったと、ぼくに言う。

そんな彼女が子どもたちから受けられるはずがなかった。彼女は施設の中で孤立し寂しい毎日が続いた。それを見たひとりの小学生の女の子が、なじみの保母さんにこう言ったという。「私は、あのお姉さんに話しかけてあげたい、さびしそうだから」。その子は親類をたらい回しにされたあげくこの施設にやってきた。孤独な実習生の姿が、以前の自分自身と重なって見えたのだろうか。

小学生の女の子は内気な性格のために、実習生に話しかけたいが勇気がなかったという。慕っている保母さんに相談したあと、思い切って話しかけることにした。やつとの思いで声をかけると、その子は保母さんにそのことを嬉しそうに話したそうだ。

保母さんにはっこり笑って、ぼくに

この話をした。ぼくは、まだ見たこと
もないその少女の優しさに涙が出そう
になる。この子は、この子はなんと
いう子だろう！

少女に声をかけられて急に元気の
てきた実習生は、得意気にぼくに報告
する。「先生、やっと子どもたちがな
つてくれるようになりました！」
ぼくは「よかったね」と、ひと言だけ
言ったのだ。これ以上、何を言えるだ
ろう。小学生の、家庭に恵まれなかつ
た子が、大学生の彼女よりもずっと深
くまで見つめていたなんて、彼女に信

「なんでもハンズ」からのお誘い
＜海遊館と
天保山マーケットプレイス＞

皆さんのお陰で「月田秀子コンサ
ート」で満一周年を迎えた「なんでも
ハンズ」。さて、次の企画は何？
と一同無い知恵を精一杯しぼりにし
ぼった結果、今いちばんのトレンド
ィスポット「海遊館」と「天保山マ
ーケットプレイス」でゆっくり過す
一日…ということに決定しました。

巨大な「ジンベイザメ」に目を丸
くするもよし、マーケットプレイス
でのショッピングに「時間」と「金
銭感覚」を忘れるのもまたよし（も
ちろん後の責任は一切負いませんが）
楽しい一日を過したいと思います。
ぜひとも、みなさんご参加ください。

.....
日時：91年7月9日（火）

AM9：30～PM6：30

集合、解散：身体障害者スポーツセ
ンター（長居～天保山間は
リフトバスを使用）

参加費：2000円程度（当日お支
払い願います。なお昼食代は
含みません）

定員：30名（電動車椅子の方はあ
らかじめお知らせ下さい）

締め切り：91年7月2日

申込み、お問い合わせ：南光まで、
（TEL.06-693-2367）

じられるだろうか。

「でも、大学生はみんな二十年ぐら
い生きてきて同じ量だけ体験を積んで
きているのだから・・・」と、学生た
ちは言うが、いや、そんなのじゃない
のだ、人間の深さというのは。

二十代の若さで夭折しながら人生の
すべての悲哀と歓喜を唱った詩人がい
たではないか。二十年生きてきたから
十年生きた人の二倍の経験をしたなん
て、そんなこと言えるはずがないじや
ないか。

大学生が「歪んだ心」を子どもたち

のなかに見つけようとして刺（とげ）の
ような視線を振りまわしていたとき、
ひとりの子どもは「大きなお姉さん」
をたすけてあげたいと悩んでいた。
ああ、ぼくたちは、このような知ら
れない魂にどれだけ救われていること
か、このような顧みられない魂に。

（知）

「美智子のこんな話」（岸田美智子）と、
「あっちゃんのシングルライフ」（山本篤
江）は今月休みます。

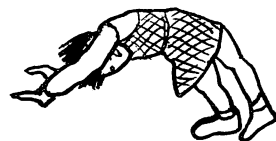
福祉機器展と医学文化教室

体が不自由になったときに使われる介護用品や福祉機器類の展示会と医学文化教室「からだの不自由になったときの住いの工夫」をあわせて開催いたします。

1. 福祉機器展日時 平成3年6月29日(土) 午前10時~午後2時
場所 大阪労災病院リハビリテーション診療科回復訓練室

2. 医学文化教室
「からだの不自由になったときの住いの工夫」
医師 小野 仁之
作業療法士 井端 恵美
日時 同日 午前11時~12時
場所 同病院 東館6階講堂

○問合せ先
大阪労災病院
リハビリテーション診療科
〒591 堺市東曾根町1179-3
TEL.0722-52-3561 内線3569



おしらせ

七月の出会い
日時 平成三年 七月二〇日(土)
午後一時~四時

場所 育徳コミュニティセンター

二階研修室(スロップ・車イストイレ有り)「大阪市阿倍野区阪南町五十一番五二八」

内容 「人にやさしい街づくり」
パネラー 原田 仁氏
会費 なし。

花の五日曜日

土曜日のサロンの集いには、参加しにくい、日曜日だったら...との声に今年から、

第五日曜日を出会いの日にしました。

皆様との出会いをお待ちしています。

日時 六月三〇日(日)雨天決行

集合 午前十時

場所 長居身体障害者スポーツセンター

集合場所 玄関受付前

内容 ボーリング(ゲーム後昼食)

会費 なし(昼食実費各自負担)

問い合わせ TEL. 06-691-1028 (富田慶子)

<サロン・あべの>第60号 編集:サロン・あべの 運営委員会 定価 100円

(〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028富田慶子)

印刷:セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.

一九九一年六月三日発行(毎日発行)KSKP通巻二六六号一九八四年八月二〇日第三種郵便認可
発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市城東区中浜2-10-13 緑橋ビル2F ニュ・アド企画気付